

外交的非難のジレンマの動態について

—政治学実験アプローチによる説明—

1. 研究の目的

(1) 外交的非難の動態の解明

本研究課題は、安全保障政策に対する外交的非難が標的国の世論の選好に与える効果について政治学実験アプローチを用いて分析し、その効果が当該二国間の関係性に与える影響を考察する試みである。

近年、東アジアでは、国家が近隣諸国に対して外交的非難を行い、国家間の関係性を急速に悪化させている。しかしながら、外交的非難が必ずしも関係性を急速に悪化させたわけではない。なぜ外交的非難は国家間の関係性を悪化させるのであろうか。本研究は、以下の問いに答える形で外交的非難の動態を明らかにすることを目的とする。

(2) 外交的非難と標的国における選好の変化についての疑問

①外交的非難は標的国における愛国心を喚起し、世論の選好をハト派からタカ派へと変化させるのではないかと。それゆえ、外交的非難は標的国の強硬政策を招き、二国間関係を悪化させるのではないかと。

②この愛国心効果は、当該国と標的国の二国間関係の文脈（政治的問題を抱える宿敵関係、アメリカの同盟国同士）によって左右されるのではないかと。

(3) 外交的非難の愛国心効果の動態についての疑問

①当該国から外交的非難を受けた後に他国から外交的非難を受けた場合と他国から外交的支持を受けた場合では、標的国における選好の変化はどのような差を生み出すのであろうか？

2. 研究の計画

(1) 外交的非難と標的国における選好の変化について

①東アジアにおける米国による軍事的保護の対象となる日本、韓国、台湾の三カ国に絞り、各国毎に2,400~3,000人規模のオンライン・サーベイ実験を行うことにした。日本の軍事予算拡大、韓国の北朝鮮に対する宥和政策、台湾のアメリカ製戦闘機の購入といった各国特有の政策争点を取り上げ、他国による外交的非難の文言を被験者に見せ、政策や政府への支持態度を尋ねる。この文言を無作為に見せた処置群と見せなかった対照群を比較することによって外交的非難の効果の吟味することにした。

②政治的問題を抱える宿敵関係、アメリカの同盟国同士といった二国間関係の文脈を吟味するために、外交的非難の同じ文言を発する報道官の国名を無作為に変化させることによって、それらの効果を吟味することにした。

(2) 外交的非難の愛国心効果の動態について

外交的非難のジレンマがもたらす信頼崩壊の連鎖を緩和する解決策を探るものとして、再び日本、韓国、台湾の三カ国の各国毎に2,400~3,000人規模の二段階のオンライン・サーベイ実験を行うことにした。先の実験を行った直後に、アメリカが当該国の政策を支持または非難する文言を無作為に各被験者に見せ、政策や政府への支持態度を再度尋ねる。もしアメリカによる当該国の政策への支持または非難が外交的非難の愛国心効果を抑制するのであれば、外交的非難のジレンマを緩和する解決策を見出すことになる。

3. 研究の成果

(1) 外交的非難と標的国における選好の変化について

①日本と台湾のサーベイ実験によれば、同様の結果を確認することができた。外交的非難の文言そのものには、国民が感情的な反応を示さなかった。他方、外国的非難が発せられた国が自国と政治的な紛争を抱えている宿敵関係にある場合、国民は愛国心を喚起し、リーダーへの支持を高め、より強硬な政策を好むようになった。

②韓国は2022年の大統領選挙前に調査を行ったところ、日本や台湾とは異なる結果を確認することができた。大統領選挙前になると、与野党が政策を巡り論戦を繰り広げるため、国民は政策に関する情報を十分に保持していることになる。この場合、国民は感情的な反応を示すことはなく、宿敵国や疑似同盟国から外交的非難を受けると、政策に対する支持を大幅に減らすことが確認された。また、リーダーへの支持や政策変更を変化させることはなかった。

(2) 外交的非難の愛国心効果の動態について

①軍事同盟の在り方に従えば、同盟国であるアメリカが支持をすれば、国民は強気に出て愛国心を喚起し、強硬な政策を好むようになると考えられる。他方、同盟国であるアメリカが不支持であれば、国民は弱気になり感情的な反応を緩和させ、強硬な政策を好まなくなるはずである。日本においては、アメリカの支持の効果を確認することができた一方で、アメリカの不支持が外交的非難と取り上げられて愛国心をさらに喚起することが確認された。

②韓国においては、大統領選挙前ということで、外交的非難は韓国の安全保障政策への支持を低下させた。しかしながら、アメリカの支持は低下の程度を和らげ、アメリカの不支持も低下の程度を和らげた。これは、日本と同様に感情的な反応が発生することで、発生したものと考えられる。

4. 研究の反省・考察

(1) 外交的非難と標的国における選好の変化について

日本で実験を行う際、回答者たちは日本の軍事力増強について具体例を用いて説明しても十分に理解していないことが分かった。そこで、防衛費の増加という形で示すと軍事力増強の意味合いが十分に認識されるため、文言の修正を行うことによって対処した。

(2) 外交的非難の愛国心効果の動態について

当初、2段階のサーベイ実験を用いて、アメリカによる支持・不支持の世論に対する影響を吟味しようとした。しかしながら、非常に短い時間に同じ質問を尋ねると、回答者がこちらの望んでいない回答をしたと思込み態度を一様に弱めることがパイロットサーベイから発見され、2段階のサーベイを用いて検証することを取りやめることにした。そこで、外交的非難の文言だけを見た群、外交的非難とアメリカからの支持の文言を見た群、外交的非難とアメリカからの不支持の文言を見た群を比較することによってアメリカによる支持・不支持の効果の吟味することにした。

5. 研究発表

(1) 学会誌等

① Kagotani, Koji, and Wen-Chin Wu. forthcoming. “When Do Diplomatic Protests Boomerang? Foreign Protests against US Arms Sales and Domestic Public Support in Taiwan.” *International Studies Quarterly*. (査読有)

(2) 口頭発表

① Kagotani Koji. 2020.9. Diplomatic Protests and Patriotism in Japan, South Korea, and Taiwan. At the Pacific International Politics Conference Online Speaker Series.

② Kagotani, Koji, and Yoshikuni Ono, 2021.4. “Diplomatic Protest and Patriotism: The Effect of Foreign Voices on Japanese Public Opinion.” At the Annual Meeting of Midwest Political Science Association.

③ Kagotani, Koji. 2021.4. “U.S. Sale of Fighter Jets, Diplomatic Protests, and Patriotism in Taiwan.” At the Annual Meeting of Midwest Political Science Association.

(3) 出版物

- ① Kagotani, Koji. 2020.5. “Diplomatic Protest and Patriotism: The Effect of Foreign Voices on Japanese Public Opinion.” RIETI Discussion Paper Series, 20-E-046: 1-27. (査読有)